

津山まちじゅう博物館構想実現のための
アクションプラン（案）

令和 年 月

津山市

【構成】

第1章 津山まちじゅう博物館構想アクションプランの策定にあたって・・・P2

- 1 アクションプラン策定の目的
- 2 アクションの効果
- 3 アクションプランと上位計画との関連
- 4 推進体制
 - (1) コンソーシアムの設置
 - (2) 企画検討体制
 - (3) 企画案の検討
 - (4) プロジェクトの展開

第2章 現状と課題を踏まえたアクションプランの基本的な考え方・・・P5

- 1 現状及び課題の整理
 - (1) 津山らしさの共有と津山遺産の発掘と創造
 - (2) 担い手となる人材の確保
 - (3) インフラ等の整備
 - (4) 魅力づくりと観光客誘致
- 2 アクションプランの基本的な考え方
- 3 核となるエリアの設定と拠点施設の整備
 - (1) コアミュージアム設定の考え方
 - (2) コアミュージアムの特徴
 - (3) 城下町エリアの重点地区設定

第3章 アクションプランに掲げる施策・事業・・・P10

- 1 施策・事業の構築
 - (1) 施策・事業の要素
 - (2) 施策・事業の内容
 - (3) 施策・事業のベースとなる津山市の魅力の整理と情報発信
- 2 施策・事業の実行
 - (1) コンソーシアムにおいて実施中のプロジェクト（R5.11末時点）
 - (2) 今後予定している事業

第4章 実現に向けたロードマップ・・・P18

- 1 実施期間
- 2 ロードマップ

第1章 津山まちじゅう博物館構想アクションプランの策定にあたって

1 アクションプラン策定の目的

本プランは、津山まちじゅう博物館構想の基本理念「津山遺産を未来に引き継ぐための津山らしさの創造と地域活力の向上」をもとに、博物館にちなんだ形で、市内全域に8つのコアエリアを定め、各エリアの特徴をわかりやすく示すとともに、「津山が目指す屋根のない博物館の姿」を実現するために必要な施策や事業をまとめるものです。

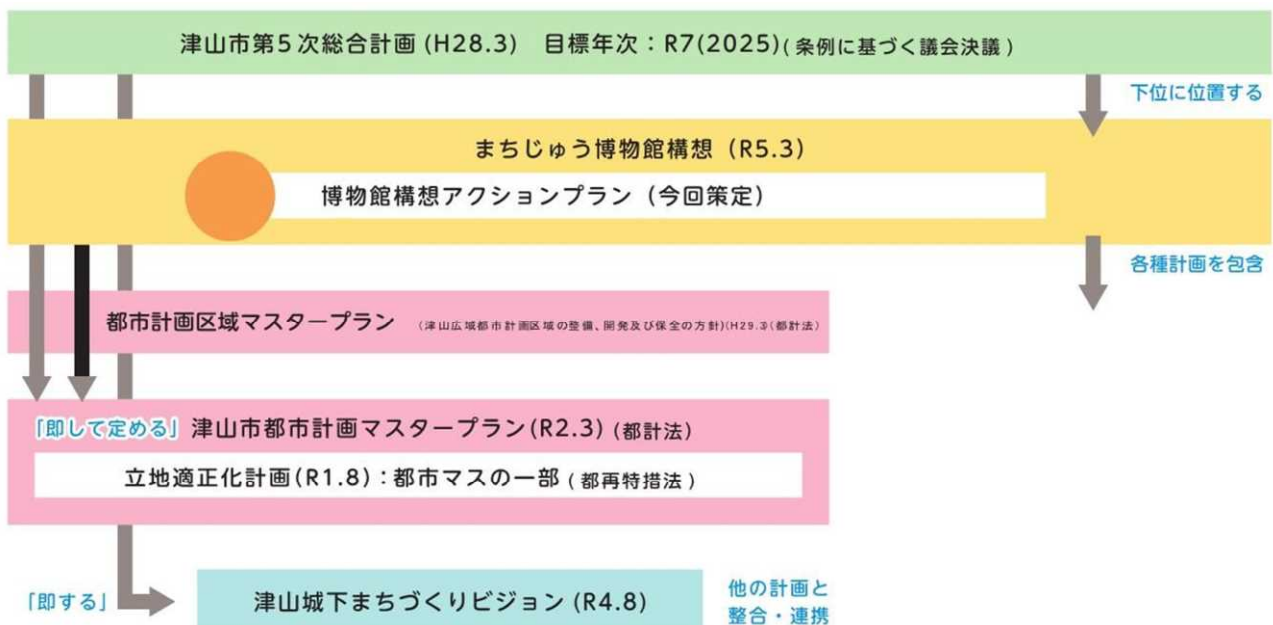
津山が目指す屋根のない博物館の姿

- 1 古代から近世、近代のそれぞれの時代にどっぷりかつかることのできるまち
- 2 人それぞれの嗜好に対応した楽しみ方が提供できるまち
- 3 来るたびに来訪者に様々な発見や交流があり、そこに感動が生まれ再度訪問したくなるまち
- 4 津山人の気質あふれる時代に挑戦する機運の感じられるまち
- 5 地域住民と行政が一体となり、津山らしさを未来につなぐための様々な活動を行っているまち

2 アクションの効果

津山まちじゅう博物館構想を具現化するために起こす様々なアクションの効果は、そのこと自体がダイレクトに博物館の構成要素（コンテンツ）となるものと、人々の生きがいや健康増進など、一人ひとりの多様な幸せ（Well-Being）につながるものに分けられます。多様化する価値観や複雑に絡まり合う人々の思いを受け止め、それぞれが思い描く屋根のない博物館を形にしていくことが重要であると考えています。

3 アクションプランと上位計画との関連



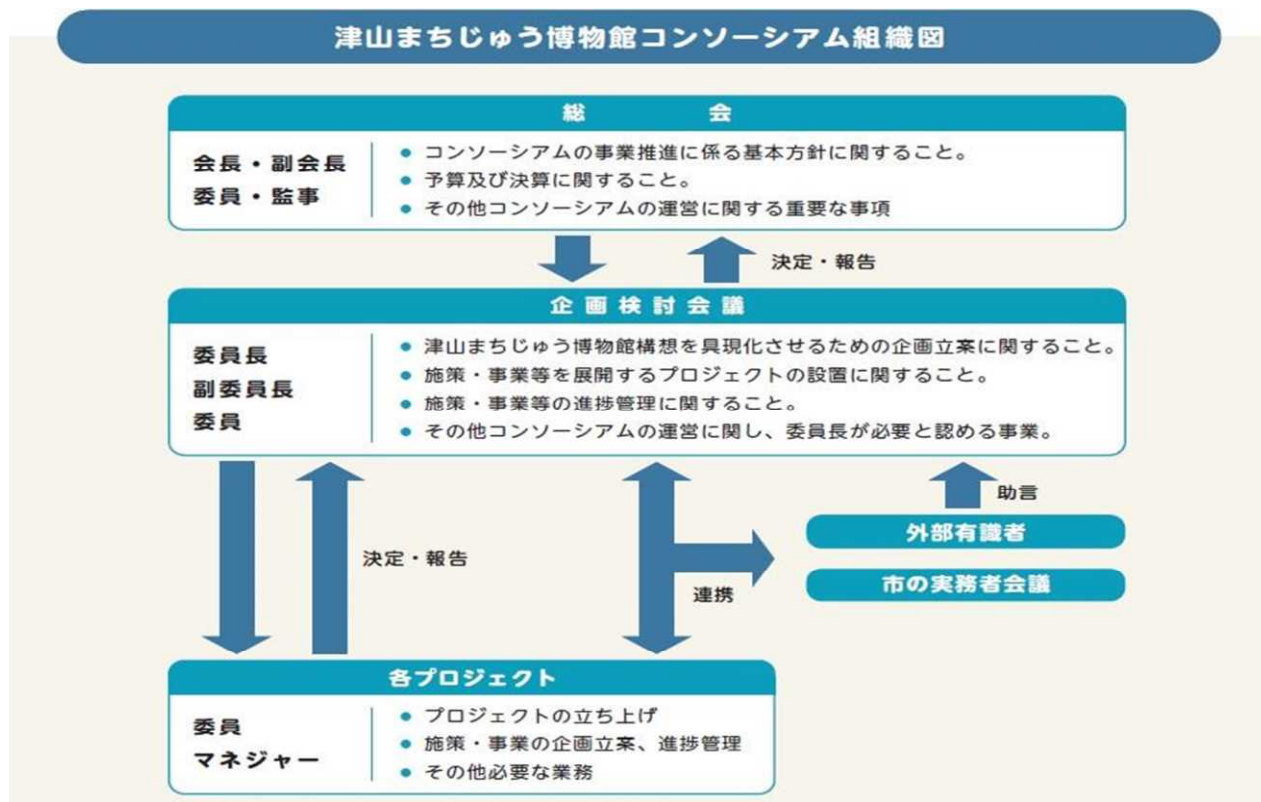
4 推進体制

令和5年3月の津山まちじゅう博物館構想の策定の後、同年4月に構想を具現化するためのエンジンとなるコンソーシアムを立ち上げ、様々な施策・事業を実施する体制を構築しました。

(1) コンソーシアムの設置

民間事業者、金融機関、関係団体などで構成するコンソーシアムを立ち上げ、構想を具現化するための様々な施策・事業を企画、決定、実行します。

なお、市の施策・事業として、各担当部局が実施するものについては、コンソーシアムの決定を経ず実施されます。



(2) 企画検討体制

①企画検討会議

構想を具現化するための施策・事業を決定します。

②外部有識者等

構想策定の際に設置した有識者会議の委員、及び、施策・事業内容に応じて、学識経験者、地域経済界などの専門家に助言、意見を聴取します。

③実務者会議

津山まちじゅう博物館構想を具現化するために、市の関係部局で組織します。

(3) 企画案の検討

施策・事業は、以下の5つの発議をもとに検討します。

①住民（市民懇談会等）からの発議

②事業者からの発議

③実務者会議からの発議

④事務局からの発議

⑤市場調査、ニーズ把握からの発議

(4) プロジェクトの展開

決定した施策・事業は、原則、プロジェクト形式で展開します。

①民間主導の展開

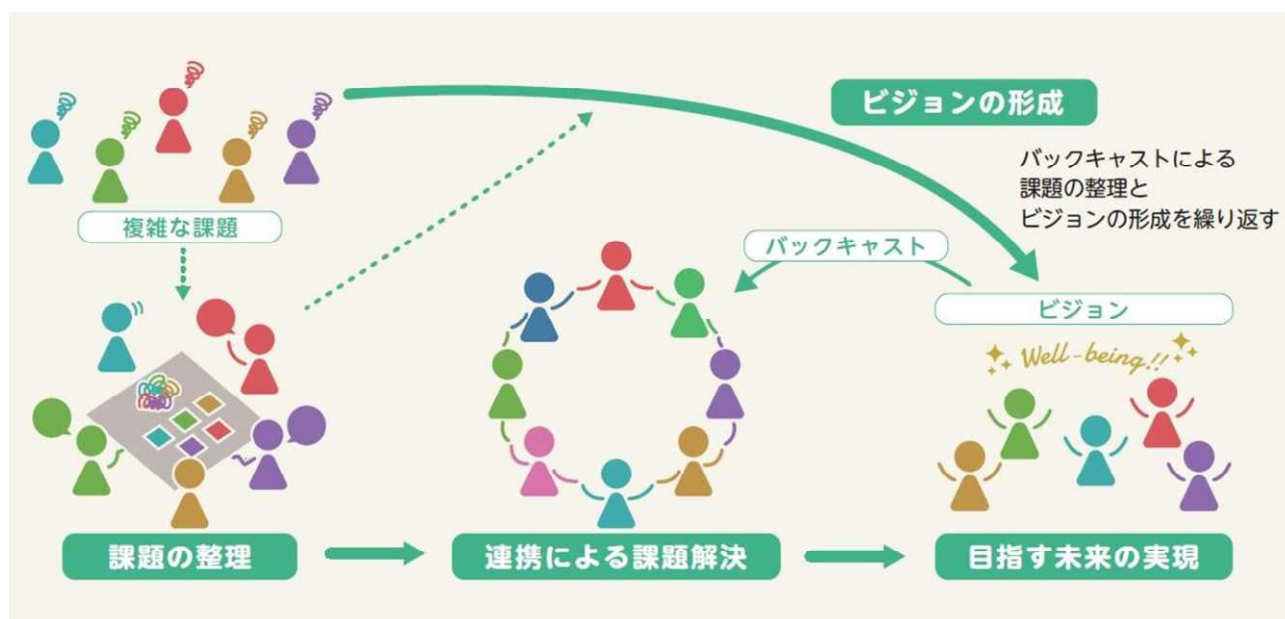
コンソーシアムで検討し構築した施策・事業は、その内容に応じて、プレイヤーとなる市民や事業者を募り、展開します。

②行政主導の展開

行政が主体となって取り組む必要のある施策については、各部局の業務として実施します。

③様々なプレイヤーの参加による発展的展開

コンソーシアムで検討し構築した施策・事業を先導的なモデルとし、市民をはじめ津山市で様々な取り組みを行いたい者がモデル事業を参考に施策・事業を行うことで、魅力あるまちづくりを展開していきます。



第2章 現状と課題を踏まえたアクションプランの基本的な考え方

1 現状及び課題の整理

(1) 津山らしさの共有と津山遺産の発掘と創造

- ・津山の歴史や文化、自然などの地域資源のポテンシャルの高さについて住民自身の認識が十分ではない。

(2) 担い手となる人材の確保

- ・人口減少が続いており、更に「18歳の崖」と呼ばれる若者の地域外への流出が続いている状況、
このままこの状況が継続すると、津山らしさを残すための担い手不足が生じる可能性がある。
- ・住民それぞれが、持続可能な地域社会づくりについて、自分ごととして、参画する意識を持つ必要がある。

(3) インフラ等の整備

- ・「道路拡幅や無電柱化の推進」「駐車場やトイレの整備」等、インフラの整備に関し市民から多くの意見が出されている。
- ・まち全体においては、建物の老朽化が進み、空き家や空き店舗が増え、町並みの保存と安全の確保が課題となっている。

(4) 魅力づくりと観光客誘致

- ・観光客からは近隣の温泉地、京阪神や広島地域に向かう通過点として捉えられており、目的地として認識されていない。
- ・住民のパブリックマインドを反映した施策を展開する必要がある。

2 アクションプランの基本的な考え方

本アクションプランは、構想の基本理念「津山遺産を未来に引き継ぐための津山らしさの創造と地域活力の向上」をもとに、「津山が目指す屋根のない博物館の姿」を実現するため、4つの基本方針に基づき、アクションを起こす意義、また、その進め方を示すものです。

具体的に施策・事業を展開する際には、課題に対して、複雑に絡み合った糸をほぐすように、原因となっている要素にまで分解し、その要素に対してピンポイントで対応策を導き出す必要があります。

そうすることで、「誰が」、「何を」、「いつ」、「どのようにして」をそれぞれ明確化し進めることができます。

3 核となるエリアの設定と拠点施設の整備

(1) コアミュージアム設定の考え方

こうしたアクションを通じて、各地域に拠点となる施設や場所が整備され、津山まちじゅう博物館構想の中におけるコアエリアとしての特徴付けが進むとともに、それぞれのエリアを結ぶことで回遊性が高まり、相乗効果による津山市全体の地域活力の向上につながっていきます。

それぞれのコアエリアを博物館になぞられ、コアミュージアム〇〇館として、全体イメージ及びそれぞれの特徴を明記したものを示します。

展示物の活用等を通じた展示物個々の魅力の向上を目指すのみならず、各エリア（館）に数多く存在する展示物の繋がりによりエリア全体（博物館）の魅力の向上を図ります。



(2) コアミュージアムの特徴

①阿波館～手つかずの自然と田舎暮らしの館～（自然体験エリア）

氷ノ山後山那岐山国定公園は、美しい山容と清流に包まれエリアの約59%を占めています。布滝、白髪滝、大滝を含む落合渓谷や深山渓谷は、四季折々の風物に恵まれています。県指定天然記念物の「尾所の桜」は、樹齢約600年を数える山桜であり、4月中旬の開花の時期には、多くのファンを集めています。

加茂地域の物見神社とともに岡山県指定重要無形民俗文化財の阿波八幡神社の創嗣祭で別名「花祭り」は、地域内の8地区が趣向を凝らした造花をつくり、奉納し、御神幸の帰途盛大に練り合います。

最近では、阿波森林公園内にグランピング施設ができ、自然と触れ合うキャンプや溪流釣りを楽しむ人々で賑わっています。

②加茂館～美しい川の流れと神秘的館～（水と森のエリア）

氷ノ山後山那岐山国定公園に指定された豊かな自然環境を有しており、黒木キャンプ場、レイクパーク加茂、ウッディハウス加茂などに多数の人が訪れています。平成8年3月に国土庁（現在の国土交通省）から水の郷百選に認定されています。中世（戦国の時代）には、宇喜多氏や羽柴秀吉などからたびたび攻撃を受け、その都度撃退し、難攻不落とうたわれた岡山県内最大級の中世山城「矢筈城跡」（岡山県指定史跡）があり、岡山県重要無形民俗文化財に指定されている「物見神社の花祭り」は、地元の人々に伝統として受け継がれています。最近では、神様に呼ばれた人だけ行けると話題の「サムハラ神社奥の宮」が注目されており、全国から参拝者が訪れるパワースポットとなっています。

秘境駅として知られる「JR 知和駅」や県最北端にある「JR 美作河井駅」には、貴重な近代化遺産である手動式の転車台が現存しており、多数の鉄道ファンが訪れています。

③勝北館～山から吹く風の館～（田園エリア）

那岐山を主峰とする山塊の広戸仙、山形仙の南麓に広がる丘陵と奥津川と広戸川の盆地が広がるのどかな田園地帯です。県下最大のため池である塩手池をはじめとしたため池が多数あり、早くから圃場整備された田畑が広がっています。

このエリアは、昔から「風の吹く町」として知られ、瞬間風速40mから50mに達する「広戸風」が発生し、人々はこの局地風と戦ってきた歴史があります。

すばらしい眺望と希少高山植物のある広戸仙・山形仙、津川ダム直下にある森林と溪流のリゾート地「奥津川ラビンの里」、那岐連峰が静かな湖面に映る「塩手池公園」など、四季を通じて多数の人々が訪れ、自然とのふれあいを楽しんでいます。

④久米館～梅の花とホタルの舞う館～（里山エリア）

一級河川吉井川が東端を流れ、その支流である久米川、倭文川が東流して吉井川に注いでいます。河川にはホタルが飛び交い、平坦地には耕地が広がり、耕地の周辺には集落が発達しています。久米山を中心とした里山は、豊かな自然に触れる体験活動の開催として活用されており、野外活動や環境学習などのレクリエーション活動が行われています。

3月になると一面に梅の花が咲き誇る梅の里公園は、「梅まつり」などのイベントや梅を使った特産品づくりに活用されています。

「岩屋城跡」（岡山県指定史跡）は、春は花見、秋は紅葉狩り、正月のご来光と四季を通じて親しまれています。南端には、市内唯一のゴルフ場や宿泊施設があり、等身大のモビルスーツで有名な道の駅久米の里は、県内外から多くの人々に利用されています。

⑤テラス空間（横野・グリーンヒルズエリア）

市街地から約16km北の横野川の上流に位置する「横野滝」は、四季それぞれの変化により美しく彩られ津山の奥座敷と呼ばれています。この地域には、200年にわたり手漉き和紙を作り続けてきた上田手漉和紙工房があり、6代目の上田繁男さんは、2020年3月に横野和紙技術保持者として岡山県重要無形文化財に指定されました。

グリーンヒルズは、市街地北西部に位置する丘陵地にある緑あふれる公園です。25haの広大な敷地内にリージョンセンター、レストラン、地産地消センターサンヒルズ、トリムの森のわんぱく城、フラワーガーデンなど多様な施設があり、ピクニックや散策、ジョギングなど多目的に使われています。

最近では、グラスハウスにフィットネススタジオ「Globe」ができ、楽しくかつよく健康になれるスポットとしてにぎわっています。

⑥城下館～津山城（鶴山公園）から中心市街地回遊のエリア～

⑦城東館～洋学と歴史探訪エリア～

⑧城西館～大正ロマン探訪エリア～

(3) 城下町エリアの重点地区設定に別記

⑨エントランス（津山まちじゅう博物館の玄関）

津山市の玄関口であるJR津山駅は、鉄道の開通以来、津山の物流、人流の窓口として、その機能を果たしてきました。1936年に造られた旧津山扇形機関車庫は、機関車庫収容線数17で、京都の梅小路機関車庫に次ぐ現存二番目の規模です。現在は、津山まなびの鉄道館として、様々な展示と憩いの場となっています。

⑩津山全体に点在する魅力

津山は、吉井川と出雲街道が交差する人流・物流の拠点として発展してきました。吉井川は、田畑を潤し、人々の暮らしを見守ってきました。吉井川に住むと言われるかっぱは、ごんごと呼ばれ、かっぱ伝説は、ときにやさしく、ときに荒々しく、津山の人々を育んだ吉井川に対する人々の思いが形になったものです。大花火大会が開催されるごんごまつりは、津山の夏の風物詩として多くの人で賑わいをみせます。また、津山盆地を東西に貫く出雲街道は、姫路から松江、そして、出雲大社へと続くみちで、後鳥羽上皇や後醍醐天皇が隠岐に流される際にも通った道です。人流、物流の主要道として、津山の城下町形成に大きく寄与しました。

一方で、津山を含む美作地域は、宇喜多氏領国が成立するまで、室町・戦国期を通じてまとまった大名領国が形成されなかったことで、大小様々な国衆が割拠し多様な城館が築かれました。津山に数多く残る中世山城は、この城館跡であり、当時の勢力争いの激しさを今に伝えています。山城形成にも大きな影響を与えた戦国大名尼子晴久が、永禄2年（1559年）に再建したのが、美作一宮の中山神社ですが、津山市街地は、神社が集中する全国に類のない珍しい地域です。二宮の高野神社、総社宮、鶴山八幡神社、津山城下町の総鎮守徳守神社という国、県の重要文化財に指定されている巨大な本殿が、直径5kmの範囲に集中しています。

秋には、日本三大神輿に数えられる徳守神社の神輿や岡山県指定重要有形民俗文化財を含め勇壮な山車巡行が多くの人を魅了しています。

(3) 城下町エリアの重点地区設定

城下町エリアは、津山城築城以来、津山市の歴史・文化・経済の中心として発展を遂げてきたエリアであり、城東・城西の重伝建地区をはじめ、津山城（鶴山公園）、つやま自然のふしぎ館、衆楽園、津山まなびの鉄道館といった津山を代表する遺跡、史跡、集客施設などが多く存在し、観光を通じた賑わい創出機能に加え、芸術・伝統工芸・食文化といった津山が誇る文化を通じた市民と来街者若しくは市民同士の交流拠点となる機能を誘導するのにふさわしいエリアです。これまでも都市機能の誘導や経済の活性化策などの計画を策定し対策を講じてきていますが、あらためて、本アクションプランにおいて重点地区として設定し、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、中心市街地活性化計画など、他の計画との整合を図りながら、津山まちじゅう博物館構想具現化策を展開していきます。

特に重伝建地区については、津山市の観光誘客のための大きなスポットとなることから、まち並みを保存しつつ、エリアの特性に対応した機能（文化交流・博物館等）を積極的に誘導する地域とします。



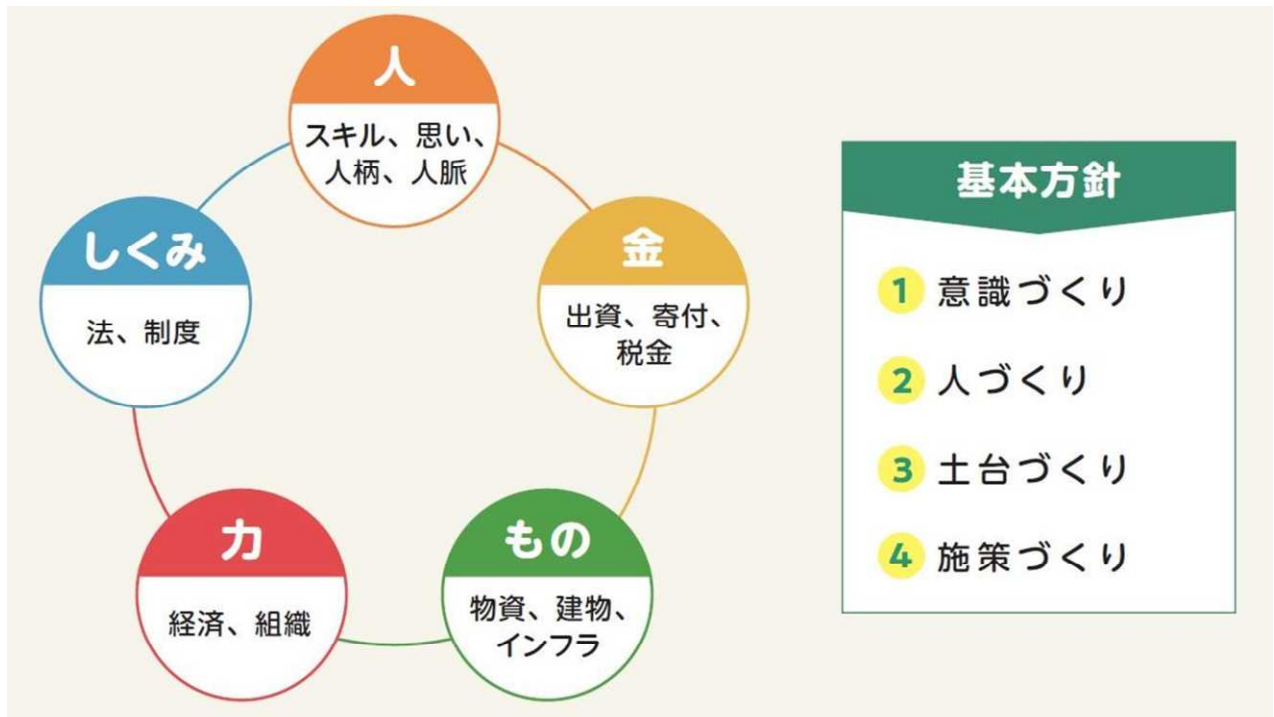
第3章 アクションプランに掲げる施策・事業

1 施策・事業の構築

(1) 施策・事業の要素

第1章で示した「津山が目指す屋根のない博物館の姿」を実現するため、「4つの基本方針」に掲げる〇〇づくりに基づき、必要な施策・事業を行います。

施策・事業は、博物館を構成するコンテンツを「人」、「金」、「もの」、「力」、「しくみ」と捉え、それぞれ、「活かす」、「作る」、「育てる」、「集める」などのアクションを興し、ひとつひとつはめ込み構築していきます。



(2) 施策・事業の内容

社会情勢の変化を把握し、ニーズに対応した効果的な施策を展開し津山らしさの創造を進めます。

城下町エリアに文化交流施設や宿泊施設等、博物館の魅力を高めるために必要となる機能の誘導を図ります。その上で、博物館内の繋がり（回遊性）の向上のため、各エリア館に拠点を設け、多様な移動手段（バス、人力車、レンタサイクル、徒歩）で繋がることにより、まちなかでの人の活動、居心地の良い空間の創出を目指します。

地域産業や農産物も展示物とし、その魅力や認知の向上を図るため、例えば食肉文化の発信として干し肉づくりの体験や木工・繊維技術（津山デニム等）の紹介・ブランド化を推し進めることで、産業の活性化に資する取組みを行います。

また、観光客を始めとする来街者については、単にまちを見て帰る、仕事が終わればすぐ帰るのではなく、滞在しながら遊びや伝統文化や技術を通じて津山市民と交流し体験することにより、津山に愛着を持ち関わり続けていきたい人（関係人口）の増加を目指します。

展示物に囲まれた居心地の良い空間の中で、まず市民に対しては、地域資源の活用を通じた体験や旅行者等来街者との交流を通じ、津山の魅力を再発見することによりシビックプライドを醸成、津山愛を抱きつつ世界で活躍する人材を育成します。

そういった方々の中から生まれた、津山で挑戦したいという方に対しては、就労支援、居住支援、空き家活用支援といった取組みを実施します。

また、津山の魅力をあらゆる媒体を活用し広く伝えるとともに、デジタル技術などを活用したコンテンツづくりを行います。



(3) 施策・事業のベースとなる津山市の魅力の整理と情報発信

津山市には、官民それぞれが運営する様々な魅力的な施設、また、人々の嗜好性に合わせた活動ができるレジャースポット、さらには、津山ならではのグルメ、特産品、農産品、工芸品などを販売している多くの飲食店、小売店が各地に点在しています。

これらの魅力を整理することで、津山の楽しみ方を提案します。

①魅力のカテゴリー

- ・ 歴史・文化探訪（洋学、時代、人物、遺跡・史跡、神社・仏閣）
- ・ レジャー（遊び、自然、川、山）
- ・ スポーツ（屋内、屋外のスポーツ）
- ・ 食（肉、お菓子、田舎料理、農産品）
- ・ 体験（寺院めぐり、伝統工芸品製作、お清め塩でつくるハーバルソルト、黒檀マイ箸づくり）
- ・ 総合プラン（交通手段（徒歩、自転車、車）によるゾーニング）

②カテゴリー別のスポット

- ・ 歴史・文化を探訪する
津山城（鶴山公園）、重伝建地区、津山郷土博物館、津山洋学資料館、箕作阮甫旧宅、神社・仏閣、中世山城など
- ・ レジャーを楽しむ
グリーンヒルズ、黒木キャンプ場、梅の里公園、奥津川ラビンの里、声ヶ峠、阿波森林公園など
- ・ スポーツを楽しむ
屋内スポーツ（津山総合体育館、津山東体育館、阿波体育館、加茂体育館、久米体育館、武道場、弓道場、プール、Globe スポーツドームなど）
屋外スポーツ（津山総合グラウンド、津山球場、勝北野球場、加茂スポーツ公園、久米運動公園、陸上競技場、人工芝サッカー場など）
- ・ 津山を食べ歩く
つやま和牛、ホルモンうどん、干し肉、そずり鍋、きじ鍋、地酒、地ビール、榕菴珈琲、和菓子・洋菓子（津山ロール）、ジャンボピーマン、ピオーネなど

③プロモーション

- ・ 津山まちじゅう博物館構想の共通のロゴ、また、取り組みの方向性や施策・事業の内容を掲載したポスターを制作し、構想の意義とコンセプトをわかりやすく提示します。
- ・ 映像や音声、ピクトグラムを駆使し、WEB上で、津山市の様々な魅力を鑑賞、閲覧、抽出、学習できるHPの制作、あるいは、それぞれのニーズ、目的に応じた自分だけの津山めぐりづくりや訪れた地の情景を投稿し感動を共有するアプリなど、デジタル技術を活用した情報発信コンテンツ制作に取り組みます。

④津山めぐりツアーの提案

城東館から加茂館コース

- 1 日目 津山駅⇒津山城（鶴山公園）⇒津山郷土博物館⇒地元飲食店で昼食⇒津山洋学資料館⇒箕作阮甫旧宅⇒田町武家地⇒ホテルにて宿泊
- 2 日目 吉井川河岸散歩⇒津山まなびの鉄道館⇒美作滝尾駅⇒美作加茂駅⇒地元飲食店にて昼食⇒サムハラ神社⇒矢筈城跡⇒美作河井駅⇒津山駅

城下町周遊コース

- 1 日目 津山駅⇒津山城（鶴山公園）⇒つやま自然のふしぎ館⇒田町武家地⇒城西浪漫館⇒地元飲食店で昼食⇒翁橋⇒作州民芸館⇒寺町散策⇒城下町泊
- 2 日目 お寺で座禅⇒城下町歴史館⇒津山郷土博物館⇒津山洋学資料館⇒地元飲食店にて昼食⇒大隅神社⇒作州民芸館⇒ごんごバスで津山駅

スポーツと穴場スポット巡りコース（レンタカーで移動）

- 1 日目 津山駅⇒グリーンヒルズ（Globe スポーツドームにて運動と昼食）⇒横野滝⇒黒沢山⇒城下町泊
- 2 日目 神楽尾城跡⇒津山高校本館⇒森本慶三記念館⇒地元飲食店にて昼食⇒大隅神社⇒作州城東屋敷⇒津山城（鶴山公園）⇒津山駅

ぐるっと城下町コース

- 1 日目 津山駅⇒津山まなびの鉄道館⇒城西重伝建地区散策⇒城西浪漫館で榕庵珈琲を味わう⇒津山城下町歴史館⇒アルネ津山内飲食店にて昼食⇒津山城跡⇒津山郷土博物館⇒津山洋学資料館⇒箕作旧宅⇒和蘭堂で休憩⇒城下町泊
- 2 日目 城東重伝建地区散策⇒地元ホテルにて軽食⇒ポートアートにて展示物見学⇒地元飲食店にてホルモンうどん⇒観光センターにて土産購入⇒津山駅

出雲街道要所巡りコース

- 1 日目 津山駅⇒城東地区散策（洋学資料館、箕作阮甫旧宅など）⇒津山城（鶴山公園）⇒アルネ津山内飲食店にて昼食⇒田町武家地から城西地区散策（城西浪漫館、作州民芸館、寺町界限など）⇒城下町泊
- 2 日目 出雲街道を西へ移動（小田中～二宮）⇒高野神社⇒作楽神社⇒道の駅久米の里にて昼食⇒久米坪井宿⇒坪井駅⇒津山駅

自然を満喫コース

- 1 日目 津山駅⇒阿波グランピング（車にて移動）⇒アクティビティ、溪流釣りなど体験⇒宿泊
- 2 日目 車にて移動⇒声ヶ嶋散策・昼食⇒津山駅

2 施策・事業の実行

(1) コンソーシアムにおいて実施中のプロジェクト (R5.11 末時点)

基本方針	事業計画 (事業名)	プロジェクト 番号	プロジェクト名	目標	事業内容
① 意識づくり	地域のお宝調査隊	1-①	市民懇談会事業 (「〇〇カタル」の会： 仮称)	市民参画による市民 意識の高揚	ストーリーや意識共有、 アイデア創出、 プレイヤーの発掘など
		2-①	つやま郷土学の推進	津山人のアイデンティ ティの創造	眞作阮甫に学ぶ (対露交渉など)
② 人づくり	人づくり事業	2-②	地域体験プログラム 見本市	地域の担い手の発掘・ 育成	地域一体となって地域資 源を活用した「体験プロ グラム見本市」開催に向 けた機運醸成
		3-①	にぎわい創出・啓発 PR 事業	観光体験や地域を楽 しむ仕掛けづくり	観光 MAP、 ビクトグラムの作成
③ 土台づくり	主要施設案内用 ビクトグラム制 作事業	3-①	にぎわい創出・啓発 PR 事業	観光体験や地域を楽 しむ仕掛けづくり	観光 MAP、 ビクトグラムの作成
	津山まちじゅう 博物館構想アク ションプラン策 定事業	3-②	津山まちじゅう博物館 構想アクションプラン 策定事業	「津山まちじゅう博物 館構想」アクション プランの策定	「津山が目指す屋根のな い博物館の姿」を実現す るためのアクションプ ランを策定
④ 施策づくり	歴史的風致維持 向上計画重点区 域内エリアマネ ジメント事業	4-①	空き家の見える化事業	中心市街地の空き家 マップの作成	空き家活用情報のマッ ピング化を図る
		4-②	空き家の流動化支援事業	中心市街地の空き家 の改修件数増	中心市街地の空き家を 活用し、「空き家再生ス クール」を開催
		4-③	まちかどマルシェ事業 (仮称)	にぎわいの創出の作成	珈琲のまちマルシェの 開催
	高等教育機関と の連携事業	4-④	高等教育機関連携事業	新たな魅力発掘	高等教育機関からの発案 事業の展開

(2) 今後予定している事業

博物館構想を具現化するためにコンソーシアム及び市の実施する予定の施策・事業（アクション）を5つのポイントに分け、以下のとおり提示します。

特に、重点的に取り組むものとしては、城下町エリアに関しては、その歴史的まちの成り立ちや特徴に対応した博物館機能、美術館機能の充実また、空き店舗、空き家を活用し、城下町エリアが持つ個性・魅力を高めるような店舗機能などの立地誘導・立地支援を行います。

そのほか、まち泊といった宿泊機能や市民や来街者が文化交流を行うことができる機能の導入を目指します。

自然や里山、田園エリアに関しては、各支所、出張所を拠点施設と位置づけ、それぞれのエリアの特徴を活かした施設・事業を展開し、コアミュージアムとしての機能を充実させていきます。また、ピクトグラムを活用し津山の魅力をわかりやすく紹介するマップとしても活用できるコンテンツの開発、津山のまちじゅうを実感してもらえるようなイベント開催や喜んでもらえるような食の開発を進めます。

津山人のアイデンティティ創造のための津山出身の偉人の顕彰事業や将来の担い手となる人材の育成を進めるとともに、津山らしさをつなぐストーリーづくりやツアーの企画、民間からの出資やふるさと納税などの財源確保にも取り組みます。

①人が集う場所をつくる。

- ・各エリアの実情に応じたコアとなる施設を選定し用途を明確にしたうえで必要な整備を行います。
- ・重伝建地区の特定物件の修理・修景の実施、田町の武家地など、それぞれの地域の実情に応じた景観の維持、保全を進めるとともに、歩道の美装化、無電柱化に取り組みます。
- ・城泊・城下町泊事業を進めます。

津山城（鶴山公園）やその周辺には、完全復元された「備中櫓」、藩校「鶴山館」、大名庭園の「衆樂園」等が往時の面影を残しています。また、城下町は、当時の町割りや町家、武家屋敷、寺社群、町並みを残し、津山城から東西に伸びる城東地区、城西地区は共に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されるなど、歴史的資源が大切に守られた日本でも有数の歴史文化地区です。

本事業は、これらの歴史的資源を可能な限り本来の姿のまま活かし、各物件ごとに宿泊や飲食機能などの役割を持った施設に再生し、特別な体験を提供することで、江戸時代における城下町の歴史と趣をまるごと体感できる市内回遊のしくみづくりです。

- ・空き家の改修と利活用策を検討しリノベーション事業を実施します。

②人が集うために必要なものをつくる。

- ・(仮称) まちの体験路線図を作成します。

マップ、ピクトグラムの作成とあわせて、WEB上で情報収集、あるいは、ユーザーが情報発信できるコンテンツを作成します。

- ・多言語音声ガイダンス機の充実、台湾向けのツアーの企画など、インバウンド対応のための諸施策を実施します。
- ・城西地区に、観光駐車場を整備し、観光客の利便性向上を図ります。
- ・城東、城下、城西などを繋ぐ電動シェアサイクルのサービスを実施します。
- ・城下まちづくりビジョンにのっとり中心市街地活性化施策を展開します。
- ・利便性を向上するために無電柱化、案内看板の設置などに取り組みます。
- ・(仮称) 津山まちじゅう博覧会を開催します。

珈琲フェアの開催、珈琲に合うお菓子の制作、だんじり体験、チケット制飲食店巡りなどを開催します。

③主体的に動く人をつくる。

- ・市民参画と意識醸成のため市民懇談会を開催します。
- ・市民団体や各種グループなどを対象にまちづくりに関する勉強会を開催します。
- ・津山人のアイデンティティ創造のため、教育委員会と連携し、つやま郷土学による小学生・中学生対象の(仮称) 子ども学芸員養成事業を実施します。
- ・津山人のアイデンティティのルーツを探るため、(仮称) デジタル絵本箕作阮甫～日本最初の大学教授～を制作します。
- ・大学、高専の学生の意見を構想に反映させ、自分ごととしてまちづくりをとらえることのできる人材を育成するために、高等教育機関連携事業を実施します。
- ・空き家や空き店舗の活用策のスクールや勉強会を通じて、実際に事業を興す人材の育成に取り組みます。

④お金を集める。

- ・クラウドファンディングや企業版ふるさと納税に取り組みます。
- ・城泊事業や空き家活用などを主体的に行うSPCを立ち上げます。

⑤新たなしくみをつくる。

- ・観光DMO、旅行業者などと連携し、本プランの「津山めぐりツアーの提案」で示したツアーを企画し実施します。
- ・〇〇ツーリズムの企画、実施
地元のスポーツや武道、歴史や文化などの各団体と連携し、カテゴライズした津山の魅力をキーワードにしたツアーの企画、実施、また、外国の関係団体などとの交流事業に取り組みます。
- ・城東地区の連動式火災報知機を設置するとともに、城西地区防災計画を策定します。
- ・津山市スマートシティ構想にのっとり必要な施策を展開します。

屋根のない博館の姿



第4章 実現に向けたロードマップ

1 実施期間

令和5年4月1日～令和8年3月31日（第5次総合計画後期実施計画実行期間）

2 ロードマップ

現在想定している事業、施策のタイムスケジュール（予定）

	令和5年度	R6年度	R7年度	R8年度
人が集う場所をつくる	拠点施設整備 集客施設整備 城泊・城下町泊など		→	→
人が集うために必要なものをつくる。	まちの体験路線図 音声ガイドなど 珈琲フェア開催 珈琲にあうお菓子制作など		→	→
主体的に動く人をつくる	子ども学芸員の育成 起業家の育成など		→	→
お金を集める	SPC立ち上げ クラウドファンディング ふるさと納税依頼など		→	→
新たなしくみをつくる	津山めぐりツアー 〇〇ツーリズムなど		→	→

※施策・事業名は、主なものを明記しています。